

## 共同運営部門：救急診療部

### 一 関係部署一

診療局、全診療科	事務局
救命救急センター	検査科
臨床研修部	薬剤科
看護局	放射線技術科

### 一 概要一

りんくう総合医療センターでは、脳卒中や循環器疾患などの専門救急を中心に、1997年の新病院竣工以来積極的に救急患者を受け入れてきた。その中心的役割を共同運営部門である救急診療部が担い、時間外救急外来患者数（救急者搬送以外を含む）はピーク時には2万2千人を超えた（2002年）。しかしながらその後、呼吸器内科や消化器内科といった内科系主要診療科の撤退により内科の救急告示を取り下げざるを得ない事態となり、2008年以降時間外救急外来患者数は急激に減少した（図1）。

時を同じくして、大阪府下における救急医療体制は崩壊の危機に瀕しており、特に大阪府南部地域の救急医療体制の立て直しは喫緊の課題であった。2009年度から始まった泉州圏域における地域医療再生計画の一環として、泉州南部地域の救急医療体制について、三次救急医療はこれまで通り泉州救命救急センターが、二次救急医療はりんくう総合医療センターが泉州救命救急センターと協働して中心的役割を担うこととなった。さらに、「高度専門医療と重症救急医療の融合」を目指して、2013年4月をもって、大阪府立泉州救命救急センターは地方独立行政法人りんくう総合医療センターに移管統合することが決定された。

二次救急医療はりんくう総合医療センターが地域の中核病院として総力を挙げて取り組むべきプロジェクトであるが、二次救急のコアになる診療科として2011年に泉州救命救急センターのスタッフを動員して救急科が新設された。これにより、診療時間内は救命医師指導下での一年目初期研修医によるプライマリー体制が確立し、確実な救急受け入れと初期研修医の教育体制の充実に繋がった。診療時間外は、2～5年目の初期後期研修医がプライマリー医師を勤め、その上に指導的立場のスタッフ医師が救急責任医師として当直する体制を構築し、各専門救急当番医師や救命センター医師がいつでもコンサルテーションを受ける体制としている。また、救急科の新設により、入院診療科のはっきりしない症例も取りあえずは救急科としてスムーズな入院が可能になり、診療時間外プライマリー医師の負担軽減につながった。

入院病床としては、5階海側病棟に緊急入院や重症患者管理用の病床として救急科・中央管理病床18床を配置している。また、当院では各病棟の空床は、当該診療科以外であっても使用できるフリーアドレス制を採用して、病床の有効利用に努めている。

これらの対策を講じた結果、減少していた救急外来患者数は救急搬送患者を中心に2013年度より再上昇に転じ（図1、表1）、2014年度には救急搬送受け入れ患者数が3,700件を超えて増加した。2016年度には、泉州救命救急センターの三次搬送患者数と合計すると6,000件を超える救急車を受け入れている。救急搬送依頼に対する応需率も、診療時間帯は95%を超えてほぼ全例の受け入れを行っており、診療時間外においても恒常的に85%を超える応需率を維持している。また、2015年度には、感染症患者の対応を考慮して、救急外来に陰圧室を整備した（写真）。

表2～4に、2016年度のwalk in および救急車受け入れ患者数、救急隊別搬送患者数、診療科別受け入れ患者数を示した。

### 一 実績一

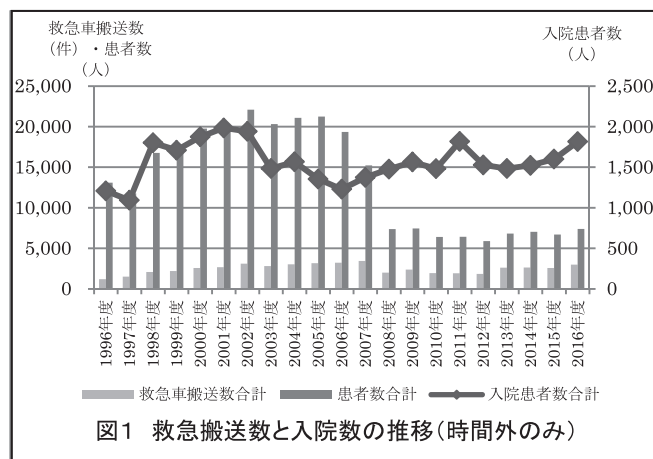


表1 救急外来患者数（診療時間内外合計）

	患者数		入院数		救急搬送数	
	合計	月平均	合計	月平均	合計	月平均
2008年度	8,703	725	1,815	151	2,706	226
2009年度	8,930	744	1,966	164	3,224	269
2010年度	7,749	646	1,880	157	2,696	225
*2011年度	8,133	678	2,338	195	2,813	234
2012年度	7,652	638	1,971	164	2,691	224
2013年度	8,909	742	2,036	170	3,663	305
2014年度	9,306	776	2,123	177	3,716	310
2015年度	9,024	752	2,231	186	3,622	302
2016年度	9,925	827	2,440	203	4,014	335

\*2011年度下半期は、泉州救命救急センター改修工事のため三次救急患者もりんくう救急外来で受け入れ。

表2 救急外来 Walk In/救急車別 受診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Walk In	421	498	416	481	527	507	533	539	571	549	417	452	5,911
救急車	304	297	294	342	341	307	358	361	410	345	324	331	4,014
合計	725	795	710	823	868	814	891	900	981	894	741	783	9,925

表3 救急外来救急隊別救急搬送数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉佐野	125	119	132	144	133	137	153	163	161	132	135	129	1663
泉南	53	50	48	67	54	41	60	54	68	48	44	51	638
阪南	38	34	28	33	40	21	38	45	60	45	30	34	446
田尻	23	28	25	28	51	35	38	27	41	44	40	42	422
熊取	38	32	27	31	29	36	36	35	36	37	41	30	408
貝塚	14	12	13	16	14	13	8	16	18	11	10	15	160
岸和田	4	6	5	10	6	6	8	7	9	7	7	9	84
岬	1	6	2	3	0	4	2	0	5	6	2	8	39
和泉	3	0	1	2	3	3	2	2	4	5	1	3	29
泉大津	2	1	2	0	2	2	2	3	0	2	4	3	23
堺	1	2	3	2	2	2	2	0	2	1	0	3	20
忠岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
高石	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
大阪府内	1	1	1	2	2	3	2	0	0	1	2	2	17
大阪府外	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	4
その他	1	4	6	3	5	4	5	9	5	6	4	2	54
合計	304	297	294	342	341	307	358	361	410	345	324	331	4014

表4 救急外来診療科別受診件数  
(初診以外、点滴、ガーゼ交換等含む)

科分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急科	455	495	473	548	574	535	585	622	673	591	524	563	6,638
産婦人科	84	106	95	116	123	102	128	113	115	129	84	90	1,285
小児科	51	51	44	44	60	55	56	61	58	68	49	49	646
循環器科系	46	47	43	35	29	40	35	24	24	30	32	28	413
耳鼻科	42	42	21	34	24	16	43	40	46	28	18	19	373
脳外科	25	16	14	24	13	22	22	20	21	15	10	16	218
外科系	13	26	7	18	15	10	12	12	19	13	15	11	171
内科系	4	8	5	2	18	29	10	6	21	15	9	2	129
口腔外科	5	0	3	1	5	5	0	1	3	2	0	4	29
整形外科	0	4	5	1	7	0	0	1	1	3	0	1	23
合計	725	795	710	823	868	814	891	900	981	894	741	783	9,925

### —今年度の成果と反省点—

コンスタントに救急搬送患者の受入れができ、入院率および入院患者数も増加している。診療時間内の初期研修体制も充実し、1年目の初期研修医には良い研修ができたこと好評であった。入院後の救急科と専門診療科間のコミュニケーショントラブルが時々見られ、より確実な救急受け入れを行うためには、各診療科間の協力体制の更なる強化が必要である。

また、2016年度は更なる救急受け入れの強化を目指し、2016年10月より診療時間外の救急責任当直医師のほとんどを救命救急センタースタッフが務め、更なる救急受け入れ患者数の増加を図った。その結果、りんくう総合医療センターの救急車受け入れ患者数は4,000件を超えて増加した。

### —来年度への抱負—

今後は内科系診療科の診療体制の充実と、専門診療科間の協力体制の強化により、一層確実な救急患者の受け入れ体制の確立に努め、地域に信頼される医療機関を目指したい。



【陰圧室】



【陰圧装置】